

平成 27 年度 リハビリテーションマネジメントに関する情報交換会（報告）

日 時：平成 28 年 2 月 26 日（金）18：30～20：30

場 所：ウェルとばた 多目的ホール

参加者：57 名

1. 内 容：

（1）基調講義（別紙 1）

「リハビリテーションマネジメントについて」 介護老人保健施設あやめの里（理学療法士）志田啓太郎

- ・リハビリテーション計画書の変化と着目点
- ・プランニングの手順（個別性に応じた課題共有と具体的手段）と目標設定
- ・マネジメント（事業所内外のプラン共有、SPDCA の考え方）、診療報酬も含めた今後の方向性
- ・リハ職に求められているもの（リハの原点を見直し、マネジメントする重要性）

（2）リハビリテーションマネジメントに関するアンケート調査報告（別紙 2）

（3）情報交換（グループワーク）（別紙 3）

アンケート調査の結果からリハマネ推進に対する課題を抽出し、通所・訪問別のグループで協議した。各グループの意見（まとめ）は別紙 3 のとおり。

（テーマと主な発表内容）

1 リハマネジメントⅡを実施するメリットをどのように伝えるか？

- ・医師の関与があるので、利用者やケアマネが分からないことを質問しやすい。
- ・本人を含めて目標が共有でき、社会参加に繋がりがやすくなる。
- ・リハビリについての話合いの場が持てるので、関わり・情報共有が密になる。

2 目標達成（サービス終了）の工夫

- ・開始時の評価、動機付け、目標設定をしっかり行う。
- ・医師から上手く助言してもらえるように準備（打合せ）しておく。
- ・達成可能な目標や期間を設定する。

（4）区リハビリテーション連絡協議会（地域リハ連携推進事業）について（別紙 4）

保健医療課より地域リハビリテーション連携推進事業の説明を行ない、区リハ協の取組みを紹介した

（5）情報交換（フリートーク）

参加者同士で各機関の取組み等について意見交換を実施した。

アンケート回答によると「他機関の取組みが参考になった」「グループワークが役立った」という意見が多かった。

運営面についてなど、日頃の聞きづらいことも情報交換できて有意義だったとの声もあった。

2. 参加者アンケート結果

回答者：44名（77.2%）

〔回答者属性〕

年代	人数
20代	12人
30代	17人
40代	13人
50代	1人
不明	1人
合計	44人

所属区	人数
門司区	2人
小倉北区	11人
小倉南区	8人
若松区	9人
八幡東区	4人
八幡西区	18人
若松区	5人
合計	44人

勤務部門	人数
通所リハ	17人
入所リハ	3人
入院リハ	1人
訪問リハ	13人
訪問看護	1人
複数部門	9人
合計	44人

職種	人数
理学療法士	26人
作業療法士	15人
介護職	1人
ソーシャルワーカー	2人
合計	44人

職場での立場	人数
管理者・役職者	25人
現場スタッフ	19人
合計	44人

問5 本日の研修はいかがでしたか？

	人数	割合
参考になった	35人	79.5%
普通	9人	20.5%
あまり参考にならなかった	0人	0%
計	44人	100%

（印象に残ったことやその理由）

・ 他施設の取組みが聞けたこと（5）
・ グループワークでの情報交換（4）
・ マネジメントについて少し理解できた
・ リハマネの仕組みが分かりやすかった
・ セラピスト自信がリハマネⅡ等のメリットをしっかりと理解することから始まると感じた。
・ リハマネⅡ加算や卒業（終了）に対して消極的な事業所が多かった印象。通所リハに求められていることの足かせにならなければ良いと思った。
・ 機能訓練から生活面へのアプローチに移行の必要があるということ。医療改正でも同様。

問6 リハビリテーションマネジメントを推進するために、どんな取組みをしたいと思いますか？（複数回答）

	人 数	割 合
他の事業所の取組みを参考にしたい	27人	61.4%
事業所内の人材育成	17人	38.6%
他職種と交流を深めたい	26人	59.1%
制度や行政の取組みに関する情報収集	21人	47.7%
高齢者サロンなど地域活動の情報収集	18人	40.9%
自主グループ支援など地域づくり	6人	13.6%
医師の意識付け	1人	2.3%
ピアカウンセリング（患者会）等の活用	1人	2.3%

問7 今後も定期的な情報交換の場が必要だと思いますか？

	人 数	割 合
必要だと思う	44人	100%
(内訳)		
あれば参加したい	30人	68.2%
都合が合えば参加したい	13人	29.5%
あまり思わない	0人	0%
計	44人	100%

問8 「地域包括ケアシステム」についてあなたの考えに近いものはどれですか？

	人 数	割 合
概念を理解して、職場や個人として関わる内容をイメージできる。	8人	18.2%
関心があり、出来ることを考えたい	25人	56.8%
概念は理解できるが、具体的に何をすべきかまではイメージできない	10人	22.7%
概念の理解が曖昧で、関わりがイメージできない	0人	0%
無回答	1人	2.3%
計	44人	100%

3. まとめ

○アンケート結果では約8割から「参考になった」との回答が得られ、参加者がリハマネジメントに取り組むためには「他機関の取組みを参考にすること」や「他職種との交流を深めること」が重要と考えていることが分かった。今後の声かけに対して21名の記名回答があり、地域人材を把握することができた。

○グループ協議ではリハマネジメントを推進するうえでの具体的な提案が数多くあった。今回の情報交換会の成果として、リハマネジメントのメリットをカテゴリー別に整理することができた。（別紙3）
 今後は利用者や他職種とのチームアプローチへの活用効果が期待できる。

○今後も定期的な情報交換を望む声が多い一方、地域包括ケアシステムの構築に対しても職場や個人として出来ることを考えるベースが形成されつつあることが分かった。
 同じサービス分野での情報交換の場と、区リハ協のような地域毎の職種間交流の場の両方があることがリハネットワークの拡大に有効であることが示された。